



あらぐさ

成長を感じた卒業研究発表会

担任 中込 英利香

12月17・18日に第33期生卒業研究発表会が開催されました。3年間の集大成として、一人一人が真剣に対象と向き合った看護実践から、自己の看護観を深め発表することができました。33期生の成長をお互いに確認できる場となりました。



演

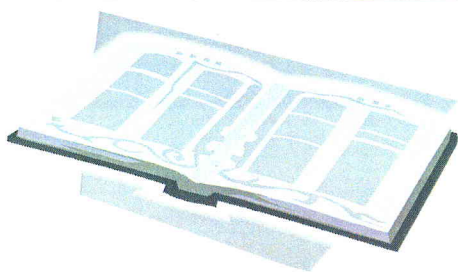
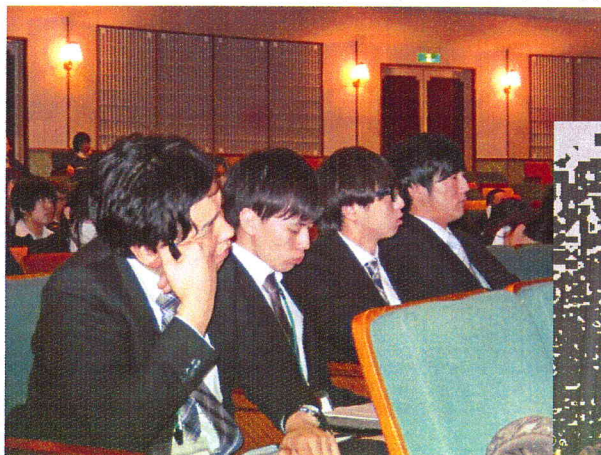


<12月18日 山梨県立文学館講堂にて>

このような学生の学びや成長には、実習指導者をはじめとする臨地の皆様の丁寧な指導や、ご家族のサポートがあったからであると、感謝の気持ちで一杯です。また、発表会を成功させるために、サポート作成から当日の運営までを協力しながら作り上げていく姿に、頼もしさを感じました。

2日目は、和田淨史先生（川崎協同病院・外科医師）に「寄りそい続けることー 民医連看護の原点ー」というテーマで講演していただきました。大
学病院の先進医療や、多くの病院を経験された和田先生だからこその見えてきた、民医連での医療活動や看護実践を多くの事例をもとに語られました。終末期ケアに自分たちがどう向き合えばいいのか、これから臨地に出る3年生だけでなく、1年生、2年生も終末期看護を学ぶ機会になりました。

33期生は、これから国家試験一色になります。全員が合格できるよう、全力でサポートしていききたいと思っています。



35期生 戴帽式を終えて

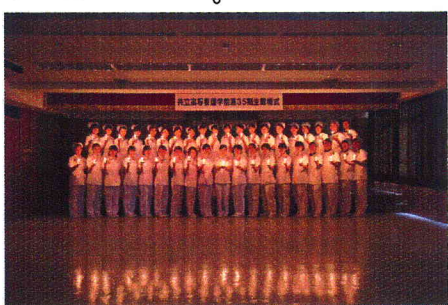
11月22日(金)に共立高等看護学院35期生39名の戴帽式が行われました。近年では戴帽式を実施しない看護学校や、学校の「行事」の一環として実施されている看護学校もあります。しかし、本校では多くの時間を戴帽式の準備に費やし、学生が主体となりの戴帽式を作り上げていきます。共立高看護での戴帽式は、①看護の教育を受ける、看護を学ぶことをあらためて考える機会にして欲しい。②看護師に必要な集団でひとつのことに取り組むことの大切さを学んで欲しい。③自分を見つめることのできる人・心をこめて人の話が聴ける人になって欲しい。という3つのねがいのもと、人間性あふれる看護師へと成長していくための機会として位置づけられています。

35期生は、例年と比較すると授業を休むことは少なく、何事も素直でまじめに取り組みます。その長所である素直な面は、短所として自らの考えを抑えて従つたことも取られます。また、戴帽式の準備では挿入歌や冊子、戴帽・キャンドルのルートなど、様々なことをクラスで議論を重ね、クラスで一つを決定していくのですが、今まで「他者と議論をする」経験をしている学生は少ない状況でした。そのため「みんなで話し合つたこと、何でも言い合える関係を作ること」「仲間を思い気持ちを持ちつたこと」を学ぶつもりだったのであります。

準備を行う中で、徐々に議論の参加の方法を身につけ、自分以外の人の考え方、捉え方の違いにも気付くことができました。そして同時に他者を尊重することも体験を通して学ぶことができ、39名それぞれが看護師になるために他者と関わる上で必要な技術を身につけることができました。

戴帽式10日への前からは朝・昼・夕、係りやクラス・実行委員で集まり、合唱練習や歩き方等の練習など時間を惜しまず行っていました。戴帽式の前日にこだわって作った冊子がやっと完成し、当日の式直前まで合唱などの練習を行っていました。当初は間に合うのか心配もしましたが、誰一人諦めることなく、粘り強く準備に取り組むことができ、35期生の団結力や強さを実感しました。何よりの35期生自身が達成感と感動を持って当日を迎えることができました。

参加された父母の方々からは、「感動しました」「泣くのを励みに頑張つて欲しい」など様々な感想をいただきました。これから、年明けにある全国模試や期末テスト・臨地実習に向け、看護学生として新たな一歩を踏み出して欲しいと願っています。そのためサポートを全力で行っていきたいと思っています。



(一年担任 岩波美和)

戴帽式 学院長挨拶



第35期生のみならず、戴帽式おめでとうございました。35期生の皆さんが入学して早やヶ月が過ぎました。多くのことを学び、病院実習も経験し、学校生活にもなれ、ようやく看護学生らしくなってきました。今日のこの戴帽式はそんな中での大きな節目となるイベントです。これまでの半年間を振り返り、気持ちを新たに明日からの歩みの出発点にするそんな一日であつて欲しいと願っています。

きょうの日を迎えるまでの準備、実行委員会を中心に大変でした。自分たちで考え、悩みがつかり合いながらみんなで作り上げた戴帽式は、たいへん貴重で深く思いでに残るものでしょう。クラスのお互いをより深く知り、団結を強める機会にもなりました。2年生、3年生の先輩も皆さんを見守りながら感慨を新たにしていることでしょう。看護の道はまだまだこれからです。たくさんの方々が待ち受けています。一つ一つ着実に乗り越えましょう。私たち教職員一同も精いっぱい皆さんを支え歩んでいきます。共にがんばりましょう。おわりに、ますます光り輝く35期生になることを祈願してお祝いのお気持ちです。本当におめでとう。

(学院長 上嶋 准嗣)

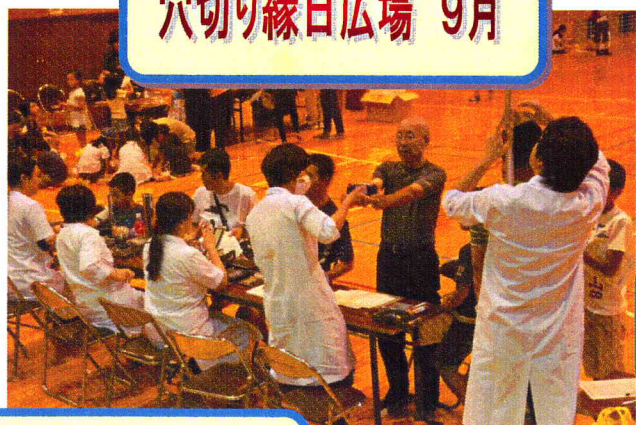
キャンプ 7月



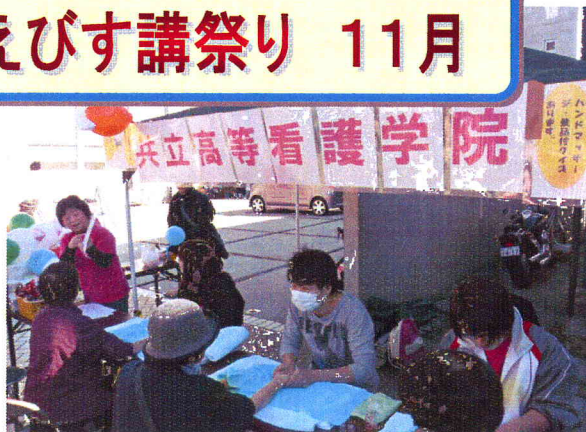
長崎原水禁世界大会代表団 8月



穴切り縁日広場 9月



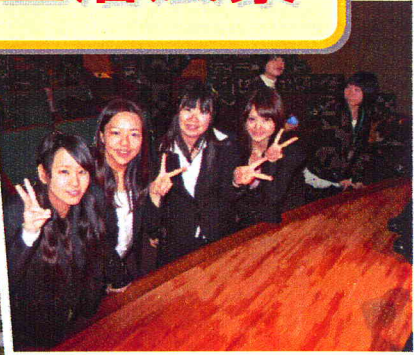
えびす講祭り 11月



戴帽式 11月



学校生活風景



実習まったただなか…

担任 宮川江里

34期生は、10月から2月までの長期にわたる臨床実習に突入中しており、前半が終了しました。今回の実習では、内科や外科、小児病棟、障がい児保育園、生命の誕生に立ち会う母性など、あらゆる経験をしています。手術した患者さんが元気に退院したことや、生命の誕生に立ち



会えた感動をキラキラした目で話す学生、闘病する患者さんにどのような看護が提供できるのかと真剣に考える学生など、真摯に実習に取り組んでいる様子が伺えます。しかし、実際には楽しい事ばかりではなく、これまでの実習よりもレベルの高い看護実践を求められるため、実習をクリアするために家では寝る間を惜しみしपोर्टに取り組み学生も多いかと思われまます。その学生を家ではご家族に支えていただき、実習の場では臨床の皆さんに声



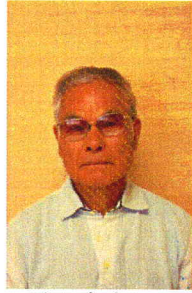
を掛けていただいたり、それぞれ立場であらゆる場面支えて下さって学生の今があると感じており感謝しております。

年明けは、早々に実習再開となります。体調を崩しやすい時期になり心配ですが、学生一人一人が自己の課題に向き合い、大きく成長して2月の実習終了を迎えられることを期待しています。寒い冬に負けずに頑張り、34期！

(2年担任・宮川江里)



<教員の研修風景 2013年8月本学にて>



長田忠直
施設の管理清掃



三満田美恵
英語担当、教務補助

職員紹介

父母の会からのお知らせ

■7月26日(金) 2年生・3年生合同部会 一各学年の現状と課題の報告を受け、学年毎に懇談を行いました。実習中の地震発生時は実習先の指示に従うこと、国家試験対策では御家族の精神的・経済的サポート、生活サポート(学習時間確保・健康維持)が大切との話がありました。

// 第1回役員会にて戴帽式記念品検討、寄贈図書確認等を行い懇談しました。

■8月6日 2014長崎原水爆禁止世界大会長崎への学生参加費を補助しました。

■11月22日 戴帽式の記念品として1年生にナースウォッチを贈呈しました。

■3年生の国家試験勉強を応援する「頑張れ3年生豚汁!」を1月に作ります。

■次回役員会3月7日

■2014年度総会2014年4月7日

予定

◇共立高看 教職員活動◇

- 8/4,5 日本看護学教育学会：発表-押領司 岩波
- 8/8,9 日本看護学校協議会学会：雨宮
- 10/7,8 全日本民医連学術運動交流集会：発表-成島
- 12/14 山梨県看護学会 押領司教員講演

- 12/25 スキー演習(保健体育)27日まで)
- 28 3年生 国家試験対策講義(30日まで)
- 1/ 6 始業 2年生実習
- 7 前期一般入学試験
- 2/10 1年生期末試験
- 16 第103回看護師国家試験(3年生)
- 17 1年生実習(基礎看護学Ⅱ)
- 24 2年生期末試験
- 3/ 7 33期卒業式
- 13 終業日
- (19、20日 前後 入学予定者オリエンテーション)
- 4/ 7 入学式



図書室

～編集後記～ 9月に発行出来なかったため今号は増ページです。7月以降の学生さんの様子を伝えるよう心がけました。みんな、悩んだり、喜んだりしながら日々確実に看護学生として成長しています。今年も臨地実習場の皆様、御家族の皆様、健康友の会の皆様、地域の皆様お世話になりました。来年も宜しく願いいたします。